

## 1. 教員および授業の概要

① 教員名：西藤真一 (SAITO Shinichi)

② 担当科目

- ・博士前期課程：開発政策総論、地域開発政策専門講義（公共経済学）、地域開発政策研究指導 I～IV

③ 教員のプロフィール

- ・関西学院大学大学院経済学研究科博士課程後期課程単位取得満期退学。
- ・2006-10年 財団法人運輸調査局研究員
- ・2006-07年 大東文化大学経営学部非常勤講師（公益事業システム論、基礎演習担当）
- ・2009-11年 明治大学商学部非常勤講師（国際交通論担当）
- ・2010年から島根県立大学総合政策学部講師
- ・2011年から中央大学経済研究所客員研究員
- ・2016年から現職。
  
- ・修士（経済学）。
- ・交通政策、公益事業政策

④ 所属学会（入会順）

公益事業学会、国際公共経済学会、日本交通学会、日本経済政策学会、計画行政学会

⑤ 研究領域や関心をもっているテーマ

- ・公益事業分野の規制改革
- ・交通（主として航空・空港・鉄道・バス）の自由化とその後の政策
- ・電力、ガス、水道の規制改革

⑥ 研究指導方針

欧州やわが国を中心とする公益事業（交通・エネルギー）の規制改革および、その後の課題に関して、市場制度の設計という観点から研究指導を行う。具体的な研究テーマや分析手法は、研究の実施可能性や学生の希望を考慮する。

⑦ 指導可能な研究テーマ（あるいは過去（現在）に指導した研究テーマ）

- ・自由化時代の空港運営
- ・過疎地域における交通網の維持

## 2. 研究業績リスト

### 【著書】

- ・ 西藤真一（著）『交通インフラの運営と地域政策—民間活用とサービス維持の制度設計—』成山堂書店, 2020年.
- ・ "Redefining the borders between public, social economy and for-profit organizations in the provision of public services: The case of Japan" in Philippe BANCE (dir.) *Providing Public Goods and Commons: Towards Co-production and New Forms of Governance for a Revival of Public Action*, CIRIEC Aisbl, 2018. ISBN 978-2-9600129-5-8
- ・ 「イギリスにおける地方空港の運営」, 手塚広一郎、加藤一誠（編著）『交通インフラの多様性』日本評論社, 第8章所収, 2017年.
- ・ 「イギリスにおける地方交通の計画手法—近年の制度改革をめぐって」長峯純一（編著）『公共インフラと地域振興』中央経済社, 第7章所収, 2015年.

### 【論文】

- ・ The Role of the Public Sector in the Provision of Local Public Services, Paper presented for CIRIEC 31st Congress International Scientific Council, 2016.
- ・ 「イギリスの小規模な地方空港の運営の実態と政府の対応」『交通学研究』第59号, 117-124, 2016年.
- ・ 「日本海側港湾の活性化と港湾運営の実情」『調査研究レポート』（株式会社山陰経済経営研究所）, Vol.11, pp.44-51, 2015年.
- ・ 「イギリスの鉄道事業における民間参画と政府関与—財源調達スキームの観点から—」『国際公共経済研究』（国際公共経済学会）第26号, pp.31-40, 2015年.
- ・ Graham, A. Saito, S. and M.Nomura “Airport Management in Japan: Any Lessons Learnt from the UK?”, *Journal of Airport Management*, Vol.8(3) pp.244-263, 2014.

## 3. 学生に対するメッセージ

自由化や規制改革はすでに遠い昔の話になっているようにも思われますが、いまなお、今日的な課題に対応すべく制度改革が行われています。たとえば、空港や水道分野ではコンセッション制度が導入され、所有と運営が分離されたうえで、運営面で民間企業が参入できるようになりました。ただし、その設備を民間事業者がきちんと維持管理し、利便性や機能を向上させることが本来求められますが、本当にそれを担保できるかどうかは、制度設計のあり方にかかっているといつてよいでしょう。

また、離島や僻地では生活を維持するために、ミニマムとしてのサービス提供が求められますが、住民はサービスについてどのように考えているのでしょうか。サービスの価値に対する考え方は、人々の暮らしによって多様化しつつある現代において、より複雑になっています。

これら、今日的な課題に、様々な考えを巡らせ、調査してみませんか。ハードですが、机上の空論にとどまることのない現実社会が見えてくると思います。